



教育文化プランナー



藤永 誠彦

山口県 JA山口県 下関統括本部 副本部長
兼 総務管理部 部長

ふじなが・のぶひこ／平成6年4月にJA豊岡に入組。平成18年2月JA下関に名称変更。平成31年4月JA山口県に合併。入組後、ゆたか出張所・清末支所にて総合渉外、出張所長を務め、平成19年12月豊浦営農経済支部次長、平成21年8月宇賀支所、平成26年4月吉田支所、平成27年2月王喜支所、平成30年4月清末支所の支所長を務め、令和5年4月より総務管理部部長兼組合員課課長、令和8年4月総務管理部長を務めた。令和8年6月より現職。

JA山口県下関統括本部は、約20年にわたり続く「食農教育実践報告大会」をはじめ、「キッズスクール」「JA女性大学ハートフルカレッジ」など、地域に根ざした教育文化活動を長年展開しています。令和7年度からは、職員を対象とした『家の光』料理教室も始動。第67回全国家の光大会で下関の取り組みを発信した藤永副本部長に、活動を「進化」させる工夫と、女性部・組合員・職員をつなぐ思い、そして後進育成にかける熱意を聞きました。

JA 組合員、女性部に育てられて

——藤永副本部長は、入組以降、渉外担当、出張所長や営農経済支部、複数の支所長など、幅広い業務を経験されてきました。仕事に対する考え方が大きく変わった出来事がありますか。

仕事観が一番変わったのは、総務管理部に来てからです。支所にいたころは、教育文化活動を正直、軽く考えていました。支所で、先輩方に支えられながらやってきたことの意味が、この部署に来てようやく分かりました。

——これまで組合員と接するなかで、“協同の力”やJAの強みを感じた出来事
はありますか。

やはり一番は、女性部活動です。私自身、女性部の事務局を長く担当し、女性部の皆さんに職員として育てていただきました。支所からの異動が決まって、異動先が明らかになる前、「できたら下関統括本部で組合員課の課長になって、また一緒に仕事をしたいね」という話をしていました。結果として兼務で組合員課の課長になり、いまでも女性部の担当を続けています。そうしたひとつひとつのつながりが、JA職員としての私の土台になっています。



女性部活動（左／子育て支援活動としてクリスマス会を開催、右／小月支部の活動）

■ 20年続く食農教育を、次世代へつなぐ

——下関統括本部では、「食農教育実践報告大会」や「キッズスクール」などの教育文化活動が長年続いています。継続できている理由は为什么呢。

各支所の支所長を中心に、小学校、地域の農家、女性部が協力してくださっていることです。下関統括本部では、平成20年4月に全支所で「食農教育推進協議会」を設立し、支所ごとに食農教育を行ってきました。年度初めに小学校、農家、女性部などで「1年間に何をするか」を話し合い、その地域に合った活動を決めています。米づくりが盛んな地域では、田植えから稲刈りまで行いますし、野菜を植える地域もあります。

活動だけで終わらず、児童が1年間の学びを発表する場として「食農教育実践報告大会」を開催していることも、大きな意味があります。以前、職員が活動内容を発表したこともありましたが、活動の魅力が十分に伝わらない部分もあり、やはり児童が発表したほうが盛り上がり



食農教育実践報告大会の様子

感じます。児童が自分の言葉で発表すると、農家さんや女性部の方に感謝の気持ちが伝わり、会場に感動が生まれます。協力してくださった方々が「1年間やってよかった」と感じられる。そこが、この活動の強みだと思います。

——藤永副本部長がおこなった食農教育で印象に残っているものはありますか。

以前、支所長をしていた時に、学校の駐車場に小さな田んぼをつくったことがあります。水が漏れないようにビニールを敷き、農家さんからいただいた田んぼの土を入れて、児童と田植えをしました。大きな田んぼではありませんが、工夫次第で、できることはあります。

うれしかったのは、今年入った新入職員が「その田んぼで田植えをした」と話してくれたことです。その職員は、第一志望がＪＡだったと言うのです。長年続けてきた活動が、子どもたちの記憶に残り、将来のＪＡとの接点になっているのかもしれない。継続してきたからこそ聞ける話だと感じました。



下関市立王喜小学校での食農教育



稲の生育を見る境田指導員（新入職員）

——これらの活動を「維持するのではなく進化させたい」とおっしゃっています。今後はどのように展開していきたいですか。

長く続いている活動も、同じ形を続けるだけでは衰退してしまうと思っています。昨年度は、食農教育の立ち上げに関わった旧ＪＡ下関元常務の藤川信久さんに講演いただきました。いまの支所長、職員は、始まりの経緯を知らない世代になっているため、「なぜこの活動が始まり、どう続いてきたのか」を知ってもらいたかったからです。

今年は、私自身が「キッズスクール」など1年間の活動を発表しようと考えています。親子で参加する田植えや、収穫したさつまいもを焼き芋機で焼いて食べたり、農家さんや女性部と一緒に皆さんが楽しんでもらえる活動を今後も考えていきたいです。

——全国家の光大会で発表され、全国の取り組みにも触れられました。どのような学びがありましたか。

下関の教育文化活動が、ほかと比べても内容が充実していることを、外にも、そして下関統括本部の職員にも知ってほしくて発表しました。全国の皆さんの発表を聞くのは本当に勉強になります。他の統括本部からは「素晴らしい」「ぜひ見に来たい」という声をいただき、家の光大会や実践報告大会に、他の統括の職員が足を運びたいと言ってくださっています。下関からしっかり発信していきたいと思っています。これも、偉大な先輩方が築き上げてくれたおかげです。だからこそ、なくさないよう、進化させながら続けていきたいと思っています。



第67回全国家の光大会での発表の様子

■『家の光』をきっかけに、職員と女性部の接点をつくる

——2025年度から、職員を対象とした『家の光』料理教室を開催されています。始めたきっかけをお聞かせください。

まずは、職員に『家の光』を読んでほしいということです。年3回の開催ですが、献立はすべて『家の光』の記事から選び、「ここから選んでいますよ」と伝えています。もう一つは、職員同士のつながりづくりです。いまはこうして一緒に何かをつくる機会が少ないので、いい取り組みだと感じています。

将来的には女性部と一緒に開催できればと考えており、女性部の皆さんも「それなら協力するよ」と言ってくださっています。参加は手上げ方式ですが、今年は、今年度新しく教育文化プランナーになった組合員課本田忠史課長が初めて加わり、参加して「楽しかった」と言ってくれました。今年度の残りの2回は9月、12月に開催を予定しています。現在は、男性職員が中心ですが、今後は部署や性別を問わず、より広い層の参加を呼びかけていきたいと思っています。



職員料理教室の様子

——告知はどのようにされていますか。

チラシを作って各支所へ発信しています。A I も使いながら、少しワクワクするような、興味を引くデザインを心がけています。下関統括本部には女性部用の調理室があり、豆腐づくりの設備もあります。職員の料理教室では、調理室で手打ちうどんをつくったこともあります。

■教育文化活動の価値を「しつこいほど」伝える

——後進の育成では、教育文化活動の必要性を「しつこいほど言っている」そうですね。どのような思いで伝えているのでしょうか。

強制してもだめだと思っています。なぜ教育文化活動が必要なのかを、私の言葉で伝え、理解してもらうしかありません。実績検討会議や朝礼でも、「これは大事だよ」と言い続けています。『家の光』についても、信用や営農に関わる大事な記事をコピーして配り、「こういうことが載っているから必要だ」と伝えています。下関統括本部の1階掲示板に気になる記事を貼る取り組みも行い、去年はそれを見て2名が購読してくれました。地道な働きかけが大切です。

本田課長には今年度、「教育文化プランナー専修講座」に参加してもらいました。全国の職員と交流しながら学んでほしいと考えています。教育文化活動の価値をどう職員に理解してもらうかを、一緒に考えていきたいです。仕事に慣れれば、自分のやりたい形で活動できる楽しさもあります。ただ、若い職員にはなかなか浸透しにくい面もあります。だからこそ、いざ自分が担当になってから「教育文化活動って重要だったんだ」と気づく前に、できるだけ早く伝えたいと思っています。

——今後、教育文化活動を通じて、どのような関係づくりに挑戦していきたいですか。

職員だけでなく、組合員、女性部とのつながりをもっと広げていきたいです。秋には女性部のふれあいスポーツ大会も予定しており、多くの職員に参加してもらいたいと考えています。どこかで一緒に活動すれば、「この前いたね」と声をかけてもらえるようになります。J A職員として顔を覚えてもらえることは、とても大事なことです。

教育文化活動は、直接事業実績に表れるものではありません。しかし、J Aという組織の基盤には、組合員や女性部、地域の方とのつながりがあります。昔は「電球が切れたから替えてくれ」と相談されるような関係性もありました。いまはそうしたつながりが薄くなっているからこそ、教育文化活動を通じて、どんな相談でもJ Aを利用してもらえる関係をつくっていききたいです。

——最後に、全国の教育文化プランナーやＪＡ職員に向けて、メッセージをお願いします。

ＪＡという組織は、教育文化活動が基盤になっていると思います。組合員や女性部があつてのＪＡです。教育文化活動は、人とのつながりがなければできません。一人では何もできませんが、一緒に考えてくれる仲間を増やし、共に喜び、苦悶しながら、ひとつひとつ課題を解決していきたいです。皆さんも、人とのつながりを大切にしながら、共に頑張っていきましょう。

(2026年7月 取材)

※次回は、引き続きＪＡ山口県下関統括本部の組合員課本田忠史課長に登場いただきます。